



① シャトルバスで自動運転実験
上毛電鉄中央前橋駅とＪＲ前橋駅を結ぶシャトルバス路線では、自動運転の実証実験を３月末まで実施。乗車には通常の運賃（一般１００円、小学生５０円）が必要です。実際に営業しているバス路線で実験するのは全国初の試みです。実証実験中のバスは週３～４日、通常ダイヤで走行します。

ICTを活用して
公共交通の課題解決を目指す

アンケートに協力をお願いします

実証実験中、利用者にアンケートを実施。バス内にある二次元コードを読み取りLINEから回答をお願いします。②と③の期間中、回答者先着各１０人にくるとんシールをプレゼントします。
期間＝①１月２４日（木）まで ②１月２５日（金）～２月８日（金） ③２月９日（土）～３月３１日（日）

実験の開始に先立ち、１２月１２日に出発式を行いました。この実験で、都市部の走行環境においてロータリーや一般車両への影響があるかなどの課題を検証します。今後、完全自動運転技術が確立されれば、運転手不足が解消され、公共交通の維持確保が期待できます。



③コミュニケーションロボットsota（ソータ）がアナウンスし乗客の不安感を解消（１月下旬から）

②ドアの付近や客席の様子、運転状況などを遠隔監視



①車両の位置情報などをリアルタイムで把握し、走行ルートを示す・通知

●安心・安全を確保する機能
自動運転バスには運転の安全確保や自動運転への不安解消のため、さまざまな機能を搭載しています。

Interview



群馬大 次世代モビリティ社会実装研究センター
副センター長 小木津 武樹さん

この実証実験では、群馬大で進めてきた研究の成果を実装しています。人々の足となる手段がなくなっていくことに危機感を覚え、平成１４年から研究をしてきました。今回の一番の目的は技術の検証ではなく、市民の皆さんに自動運転を身近に感じて受け入れてもらうことです。そのため、とにかく安全面に配慮しています。また、地域と路線を限定することで、地域の足として根付かせたいと思っています。今後段階的に技術を導入し、完全自動運転での実用化を目指します。公共交通の維持は多くの自治体が抱えている課題です。この実証実験をスタートに課題解決に取り組んでいきます。



自動運転バスはシステムに従い自動で走行します。万が一に備え運転手が同乗しますが、通常時はハンドルを握りません。

公共交通×新技術
誰もが安心して出掛けられるまちづくりを

交通手段は誰もが直面する問題

超高齢社会を迎え、自動車の運転に不安を感じる人が増えていきます。高齢者などの交通手段を確保することは社会の最優先課題の一つです。バスをはじめとした公共交通の重要性は年々高まっています。移動手段をどう確保するかは、全ての市民がいずれは直面する問題です。

公共交通維持には課題も

公共交通に対する市の昨年度補助金額実績は、市が委託するバス路線が約３億円、でまんど相乗りタクシー「マイタク」が約１億７、０００万円。いずれも今後の増加が見込まれます。一方で、市の委託バス路線の利用者数は近年横ばい傾向で、利用者を確保し続けるため、利便性の向上も大きな課題となっています。また、近年ではバスをはじめとした運転手不足も深刻化しています。

問 交通政策課
027・898・5639